

海は、果てしなくひろがっています。

水平線は遙かに遠く、どこまでもどこまでも海は続いていて、陸地はもう無いのではないのかと思うくらいに広く感じる場合があります。

“<sup>くどく</sup>功德”の“海”と書いて「<sup>くどくかい</sup>功德海」という言葉があります。

海は、その広大さから仏さまの<sup>おお</sup>大なる<sup>じひ</sup>慈悲のはたらきに<sup>たと</sup>喩えられます。

お釈迦さまの教えを聞き、日々の行いをなし、この世界の<sup>めざ</sup>真実に目覚める時、その<sup>おお</sup>功德は<sup>おお</sup>大海原のように、果てしなく私たちを包むことでしょう。

波は絶え間なく打ち寄せ、<sup>くだ</sup>砕ける<sup>はとう</sup>波涛の音は大きく強く私たちの心に届きます。海<sup>しお</sup>の潮の音と書く「<sup>かい</sup>海<sup>ちよう</sup>潮<sup>おん</sup>音」という言葉は、波の音を、<sup>ぼ</sup>仏さまや<sup>ぼさつ</sup>菩薩さまの声に喩えたもので、その声が大きくそしてあまねく聞こえるということを表しています。

大きく聞こえるということは、音の大きさだけを表しているのではないでしょう。仏さまや菩薩さまの声は私たちの心にまっすぐ届き、心を揺り動かす大きな力を持っているということではないでしょうか？ 海辺に立ち、海を眺める人々に波の音はあまねく響きわたります。仏さまの教えも、そのように人々の心にあまねく響きわたり、よき変化をうながすことでしょう。

海は、<sup>かわ</sup>河や雨、<sup>こぼ</sup>雪を受け入れます。それらを拒むことはありません。

僧侶を<sup>こころざ</sup>志す者は、さまざまな考え方や性格の人がいます。しかし、ひとたび<sup>ぶつもん</sup>仏門に入れば、海が河や雨、雪を受け入れ海とするのと同じように、皆同じ、仏さまの教えの世界に身を置くことになります。

このように見えてくると、海と仏さまは、共通する特徴が多くあるのだと思います。

仏さまの功德は、はてしなく私たちを包みます。声は大きくそしてあまねく私たちの心に届き、よき変化をもたらします。

そして、仏さまの教えにふれる者は、ひとしくすべて受け入れます。

まさしく、<sup>こと</sup>仏さまは海<sup>こと</sup>の如くではないでしょうか？